

## 平成18年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	介護予防のためのハーモニックセラピスト養成教育システムプログラム開発		
法人名	学校法人福岡YMCA学園		
学校名	福岡YMCA国際ホテル・福祉専門学校		
代表者	理事長 権藤 與志夫	担当者 連絡先	宮田公英 TEL (092) 831-1771
<p><b>1. 事業の概要</b></p> <p>平成18年度の介護保険制度の改正により、「介護」から「介護予防」へと方針の転換が行われた。より効果的な介護予防サービスの提供は介護業界における急務といえよう。そこで本事業では高齢者になじみの深い「音楽」を介護に取り入れ、自発性、継続性の高い介護予防プログラムを提供できる人材を養成することを目的とした。実施委員会、各分科会での検討を経て、介護予防プログラムを提供できる人材を育成するシステム（ハーモニックケア指導士養成システム）を開発し、そのシステム（カリキュラム・教材等）に沿って介護職に研修を行った。また、その研修の有効性を確かめるため実証講座を実施した。さらに介護現場での「音楽」に対する現状やニーズを明らかにするため、ニーズ調査を実施した。</p> <p><b>2. 事業の評価に関する項目</b></p> <p>①目的・重点事項の達成状況</p> <p>本事業は、音楽を活用した介護予防プログラムを提供する「ハーモニックケア指導士」養成のための教育システムを開発する目的で実施された。事業においては各分科会の開発研究に基づき「ハーモニックケア指導士養成研修」のカリキュラム、テキスト、ビデオ教材が開発された。実証研修によってこれらの有効性が実証され、ニーズ調査を通して介護事業所のニーズにおおむね応えうるものであるということが示されている。また研修の受講生や実証講座の場となったか介護施設からも本研修に対して高い評価が寄せられた。これらのことから本事業の主たる目的は達成できたといえる。</p> <p>②事業により得られた成果</p> <p>本事業では、ハーモニックケア指導士養成のための教育システム（カリキュラム、テキスト、教材ビデオ）を開発した。カリキュラムは介護・医療の専門家や音楽専門学校の講師といった実施委員会委員、分科会委員の意見から「ハーモニックケア」に必要とされる知識や技術が獲得できるように構成されており、全62コマ、93時間のカリキュラムとなっている。テキストはこのカリキュラムに対応した内容となっており、「介護編」「音楽編」「実践編」の3冊の構成になっている。教材ビデオは「ハーモニックケア」とは何かということについての認識を深めることのできる内容のもので全部で3本作成された。</p> <p>③今後の活用</p> <p>本事業で確立された「ハーモニックケア指導士養成研修」の教育システムは、介護に携わる人材に研修を行っていく形式のものである。今後も介護現場で働く人材を対象に研修を行い、介護職のスキルアップ、介護サービスの質の一助となればと考えている。さらに専門学校の介護福祉科の学生を対象に対しても研修を実施し、より職場のニーズに合った人材として育成することで雇用につなげていく予定である。</p> <p>④次年度以降における課題・展開</p> <p>今回実施した研修の中で音楽系の授業に関して受講生の音楽に対する習熟度に差があり学習が困難だったという意見も得られている。今後は音楽についての事前試験による習熟度別クラス編成を実施したり、教授法を改善していくことについてのさらなる検討が必要である。また、今年度の事業では介護に携わる人材への研修を行ったが、次年度以降は音楽を専門とする人材（音楽専門学校の学生など）に介護の専門的知識や技術を獲得させ、「ハーモニックケア指導士」として養成するためのシステムを作成することで、「ハーモニックケア」をより幅広いものへと発展させていきたいと考えている。</p>			

### 3. 事業の実施に関する項目

#### ①ニーズ調査等

介護事業所における介護予防や音楽に関する取り組みの現状、雇用についてのニーズ等を調査することにより、より介護現場の実情に即した人材育成のためのカリキュラムを開発するという目的でアンケート調査を実施しました。調査は東京都・福岡県の2ヶ所で行われ、それぞれ500の事業所に対しアンケート用紙を送付しました(アンケート回収数90)。調査の結果、音楽に関する取り組みの導入を希望する事業所が75.6%にのぼるなど介護事業所の音楽に対する高い関心が明らかになりました。一方音楽に関する取り組みを行っていない事業所(24%)のうち、取り組みを行わない理由を「ノウハウの不足」としている事業所が68%を占めており、介護職に音楽を活用した介護予防プログラム指導法を獲得させる本事業内容はこの現状に即したものと推察された。また、自由記述の中で、必要とする人材が「音楽」という一つの専門性に秀でているだけでなく、介護に関連する幅広いスキルを持った人材であるという意見が寄せられ、本事業が目指している人材育成に合致したニーズをもっていることが示唆された。

#### ②カリキュラムの開発

介護現場で働く人材に「音楽」の基礎を学習してもらい、音楽を用いた介護予防プログラムを実施できる人材として養成するという狙いでカリキュラムを開発した。介護、医療の専門家や音楽専門学校であるミューズ音楽院講師等から、「ハーモニックケア」に必要であると思われる事項を提案してもらい、それらの事項をすべて組み込んだ内容のカリキュラム(62コマ、93時間)を作成した。カリキュラム内容は大きく分けて3つ。まず一つが「音楽」の基礎知識・技術についての学習、二つ目が介護や心理学など「ケア」に必要な知識や技術についての学習、三つ目が実践的なプログラムについての学習である。研修の最後には修了試験が組み込まれている。

#### ③養成講座の実施

音楽を活用した介護予防プログラムを指導できる人材を養成するという目的で、介護現場で働く人材に「ハーモニックケア指導士養成研修」を実施した。受講生は14名で、うち修了したのは11名であった(修了できなかった受講生は仕事が多忙で調整が難しくなったため)。研修は福岡市中央区天神の施設で平成18年10月14日から平成18年12月17日まで毎週2回実施された。受講生は日ごろの業務を通じて音楽の有効性を実感しており、毎回熱心にかつ楽しんで受講していた。研修を終えた際には、音楽を有効に使う方法について学べたこと、より深い介護の知識を得ることができたことについて喜びの声が寄せられた。

#### ④実証講座

「ハーモニックケア指導士養成研修」の有効性を実証するため、実証講座を行った。研修を修了した受講生が福岡市内の介護施設等で実際に「ハーモニックケアプログラム」を実施し、高齢者の心身の状況に改善が見られるかを検討した。実証講座に参加した受講生は11名で、実証講座の期間は平成19年1月中旬から平成19年2月末までであった。対象となった高齢者は36名であった。受講生はこの講座を通じて、「ハーモニックケア指導士養成研修」で学んだ内容を、実践的に活かすためのスキルを身につけることができ、また、プログラムの実施にあたって高齢者の心身の状況についての測定を行い、プログラムの前後の比較を行った結果、対象となった高齢者の口腔機能や意欲の向上、感情の活性化などの効果が得られた。

#### ⑤その他

本事業は介護予防に「音楽」を活用することで、高齢者が「楽しく」「継続できる」という効果を狙っている。また、効果的な介護予防のために、介護に関するより専門的な知識・技術が獲得できるカリキュラム構成を目指した。実証講座を通して高齢者や施設職員から継続を希望する声が見られ、測定データからも快感情や意欲の増加が見られるなど「楽しさ」「継続性」の面での狙いを達成し、同時に口腔機能の向上が見られるなど介護予防の効果も得られた。この成果が得られた理由の一つに、研修を全体を通して「対象者のニーズに合わせる」ことを徹底して指導してきたこともあるのではないかとと思われる。音楽業界では「聴衆のニーズに合わせた音楽」を提供することが必要であるし、介護業界においても「利用者の心身の状況に応じたサービス」を提供することが必要である。この点を重視し養成研修を実施することが、「対象者が望みかつ対象者にとって必要な」プログラムの提供につながっていくと思われる。